

令和3年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

令和3年11月24日（水） 午前10時～正午

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

（1）委員（11名）

佛川恒明委員、菅原俊博委員、堀合範子委員、松田治樹委員、高橋則子委員、
佐々木さつき委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、
小笠原智恵子委員、及川智子委員

（2）事務局（8名）

市川生涯学習部長、梅原花巻図書館長、
小原大迫図書館長、菊池石鳥谷図書館長、久保田東和図書館長、
高橋花巻図書館副館長、佐々木花巻図書館業務係長、黒澤石鳥谷図書館主査

4 欠席者

1名（中里美香委員）

5 傍聴人

1名

6 議題等（議事録）

◎会議成立の報告（高橋花巻図書館副館長）

- ・委員12名中11名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。

1 開 会（高橋花巻図書館副館長）

2 あいさつ（坂本会長）

おはようございます。お忙しいなか、また、足元の悪いなかお集まりいただきまして、ありがとうございます。市民が待ち望んでいる新図書館、それからコロナ禍における運営、いろいろなことがございますが、皆さまのご協力のもとに充実した協議をしてみたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（○高橋花巻図書館副館長）

ありがとうございます。それでは議事の進行につきましては、協議会規則第6条により会長が議長となりますので、坂本会長、よろしくお願いします。

（○坂本会長）

それでは早速議題のほうに入りたいと思います。「令和3年度花巻市立図書館の事業実施状況等について」事務局よりご報告お願いいたします。

3 議 題

（1）令和3年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・令和3年度花巻市立図書館の事業実施状況について、（令和3年10月末までの実施状況を）花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：佐々木業務係長、大迫：小原館長、石鳥谷：菊池館長、

東和：久保田館長

（質 疑）

（○坂本会長）

本当によい企画なのに中止というものが多くて残念に思います。今までのところでご質問、ご意見等ございましたならば、お願いいたします。

（○堀合委員）

花巻図書館の3ページですけれども、このILCの講演会の講師は決まっておりますでしょうか。もし決まっておりましたら、お知らせいただきたいです。

（○佐々木花巻図書館業務係長）

国立天文台水沢の田崎文得さんが講師です。昨年度もILC啓発普及事業でワークショップを開催した時にお願いした先生でございます。

（○堀合委員）

はい、ありがとうございます。

（○坂本会長）

ほかにございませんでしょうか。（議長席にいて発言しにくいのですが）中止にな

った事業についてはどのようにお考えですか。いろいろなことが考えられるかと思いますが、そのことについて教えてください。

(○梅原花巻図書館長)

お答えいたします。(例えば) みんなでライブラリーやスキルアップ講座は日程を延期できるものについてはすべて日程を延期して、また、会場についても文化会館や石鳥谷生涯学習会館など、新型コロナウイルス感染症の対策レベルが上がった時にも利用できる会場を設定して開催しましたが、講師の日程調整や会場の関係で延期が難しかったものについては、中止ということにさせていただきました。今後、いろいろな企画を考えると、今回中止となった事業ができるかもしれませんが、中止とした事業については(その時点では)開催が難しかったものです。調整が可能な事業については延期して開催したいと計画しておりました。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。ほかにございませんか。それでは、議題の2番に移ってよろしいでしょうか。「花巻市子ども読書活動推進計画について」事務局よりお願いいたします。

(2) 花巻市子ども読書活動推進計画について

- ・第四次花巻市子ども読書活動推進計画(案)について、高橋花巻図書館副館長から説明。

(質 疑)

(○坂本会長)

ありがとうございます。ただいまご提案いただきました、第四次花巻市子ども読書活動推進計画案について、つけ加えたいことや、疑問に思っていることがございましたら、お願いします。

はい、佐藤委員。

(○佐藤委員)

資料11ページの市立図書館の子ども1人当たりの年間貸出冊数のところで、高校生の実績を見ると、1冊台で、今の高校生が小学生だったときに、学校図書館ボランティアとして、かなり力を入れて活動しましたが、何にもなってなかったのかなって、子どもたちに何の支援もできなかったんだっていうふうな思いになりました。どうしてこのような結果になったのかということを、5年間ですかね、いろいろと振り返るわけですけど、一つ私が思うことは、花巻市の子ども読書活動推進の主な軸が絵本へのアプローチだからではないかと考えています。9ページの7番にありますように、

ボランティアへの必要な知識や技術を習得するための学習の場であるスキルアップ講座が、この5年間、絵本の選び方が主なテーマになっています。私の個人的な経験から申し上げますと、大人が子どもにできる読書支援の一つは、一つの流れとしては字の少ない絵本、赤ちゃんの絵本から字の多い絵本へ、それから、幼い人向けの片側のページに絵があって、もう一方に大きな字だけある童話、それから挿絵の多い物語、そして挿絵の少ない物語、それから挿絵のない物語、小説へと移っていくために、目標は、子どもが一人読みの読書ができるようになるということだと思いませんか。ところが、小学校の図書ボランティアになって読み聞かせをするときに、先輩のボランティアさんが読んでいる本がブックスタートのような幼い人向けのものだったので、本当に驚いて、これでは読書支援にならないと思って、坂本先生（会長）に2日間にわたる勉強会を2年間やっていただいて、本当に何とかしたいと思って、いろいろ多方向に意見を言ったんです。図書館の方に相談すると、ボランティアへの敷居は低くして、たくさんの人に集まってもらって、気持ちよくやってほしいから、細かい注意はしないとおっしゃるし、学校の先生に相談すると、学校では、教育事務所に報告するのは、読み聞かせをしているかどうかだけで、内容は問われていないから、学校は何も言わないと言われてしまうし、本当に一部の子どもたちから「読み聞かせっていうのは小さい子の絵本を黙って聞くことだろう」というような厳しい声もあって、本当に子どものための読み聞かせになっているのか、大人の世界での学校とか図書館の取り組み実績としての数字を高くするために、取りあえず形だけのことはすることなのか、本当に疑問に思うこともあって、小学校の図書ボランティア活動から、今は身を引いているんですけれども、今までの、第三次子ども読書推進計画のとおりやっていたのは、本を読む子どもは育たないということだと思わないので、第四次に向けては議論を重ねていくということが必要だと思いませんか。ちなみにこの本は『子どもに物語の読み聞かせを』という本ですけれども、これは児童図書館研究会というところから出版されていて、本屋さんでは注文できないんです。この児童図書館研究会というところに注文しないと買えない本で、昨年春に石鳥谷図書館に1冊寄贈して、あとは花巻図書館の館長さんにも差し上げて、花巻管内で2冊蔵書になっていますので、関心のある方にはぜひご取得いただいて、子どもに、本当に子どもというのは赤ちゃんだけを指すわけではないですから、小学生の子ども、中学生の子ども、高校生に向けて、どういう支援をしていったらいいのかということ、本当に、皆さんで知恵を出し合ってくださいね、この年間貸し出し1冊からどうか増やせるように活動していきたいと思います。よろしくお願いします。

（○坂本会長）

ありがとうございます。貴重なご意見頂戴いたしました。これに関しては、図書館側のほうから何かございますか。

(○梅原花巻図書館長)

ありがとうございます。その部分は、ボランティア団体さんや認定こども園の園長先生など活動されている方からお話をお伺いした中でも、やはり絵本中心になっているので、また、一般的な書店の話でも、絵本の売り上げは落ちていないけれども、物語や児童書の売り上げが落ちているというような記事を見ますと、やはり絵本に重きがあるのかなと思います。当館でも絵本が多いですが、物語も読んでいただきたいと思います。閉架書庫にある本を開架に出すようにはしていますけれども、なかなか思うようにいかないということがございまして、数字として見ても、小学校就学前、小学校のところまでは、貸し出し冊数は増えていますが、中学校、高校になるとぐんと減っているという、そこをどうやって高校生のところまで本を読むようにつなげていくかということは、第三次計画だけでなく、今までの計画を通しての大きな課題だと思っています。なかなかすぐに、このようにすれば改善するというふうにはちょっと思いつかない部分もあるのが正直なところございまして、皆さんのご意見を聞きながら、また、生活環境も中学校、高校となると変わってきますので、そういった外的要因で何ともならない部分はあっても、それでも地道にどういうことを積み重ねていけば、1冊が2冊になるのだろうかというところを、今も担当者皆、探り探りやっている部分がありますので、そこは、今、佐藤委員さんからもご意見を頂戴いたしましたので、そのご意見も踏まえながら考えまして、また、皆さんからもご意見をいただいで考えていきたいと思っています。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。確かに中学高校になると、今、梅原館長さんがおっしゃったみたいにクラブ活動、それから学習のほうも力を入れないとうまくないということになるので、なかなか難しいことですね。自分のことを振り返ると、まず内容だけ要約した本を読んで、それから後で読みたかったら後から読もうかなって。そんな工夫もしたような気がしていますけれども、なかなか難しい問題ですね。

はい、熊谷委員さん。

(○熊谷委員)

それに付随してなんですけれども、今はコロナの感染症のために、小学校での読み聞かせというのが行われてないのですが、小学校で朝10分間の読書の時間をいただいて、1年生から6年生までその時間は変わらないんですよね。そうすると、その10分間で読める本というのは限られてしまって。本当は6年生になれば、もう絵本を

見せないで、物語を「だーっ」と読んでいって、それを子どもたちはただ聞いて自分で空想を膨らませるという、そういうようなやり方をやりたいなと私は思っていましたし、私の子どもがまだ小学校に行っているときは、30分ぐらい時間があつたんですね。だからそういうようなことがとてもよくできたんです。土曜日の午後、授業が終わってからだったと思うんですけども、今はもう本当に始業前の10分間で、読みたいと思ってちょっと長いのを読むと、「キンコン、カンコン」鳴り出して、ちょっと焦るような状態もあるので、結局、絵本のような、短い、10分間で読めるような本を読んで、（10分間で）読めない本は早くしゃべりながら読むというようなことをしながら、1年生から6年生までだいたいやっていたんですけども。

私の孫がとても本が好きで、ずっと本を小学校のときも読んでいましたし、中学に行って、たくさん本を読むからどうしたのかなと思ったら、ちょっといじめられている。岩手県ではないのですが、自分が教室にいるといじめられるので、図書室に行って本を読んでもらえばそういうことがなかったのかということもあったので、中学校のときはもうほとんど休み時間は図書館に行って本を読んでいたと言っていました。だから、本に助けられてよかったねという話をしていたのですが、今度それが高校に行きましたらば、部活が大変忙しくて本を読む時間がないと言っていますね。だからそういうような状態の中で高校生が本当に少ない冊数になってしまうのは、結局部活はやらなければならない、部活を頑張らない子が本を読んでもらえば冊数も上がるのかなと思うんですけども、高校を卒業して、小学校からずっと本を読んでいたという、心を耕されていたと思う子は、大人になってからまたちょっと時間があると本に戻っていくのではないかなという希望的観測を私は持っております。

（○坂本会長）

ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

はい、小笠原委員さん。

（○小笠原委員）

今の関連でなくてもよろしいですか。貴重なご意見の後に恐縮ですが、数字のところの確認です。12ページの小学校、令和3年度19施設となっておりますけれども、前の説明で小学校の数が減ったと言っていたので、ここのパーセンテージが違ってくるのかなと思いました。あと、それに関連して22ページの、最終的なこれからの目標値に関しても、学校数を確認していかなければならないかなと思いますけれど、回答をお願いします。

（○坂本会長）

事務局、お願いいたします。

(○高橋副館長)

はい。目標 5 の令和 3 年の数値に関しましては、上のほうの目標値は、括弧書きではないほうが第三次で出した数値ですので、減っていない状況で上げているところです。括弧書きのほうが実際の施設数になってございます。この達成率の出し方については、あくまで目標値に対しての達成率として、今回表記しているところです。こちら辺に関しては、表現の仕方ですね、そのとおり保育施設に関しましても、区分が認定こども園等いろいろと増減が激しかったものですから、この数値の出し方を検討したのですが、今回、目標値においては第三次でたてた数値を実数で、括弧書きで実際の数値を用いて、達成率に関しては、この目標値に対する、ということで載せておりました。

(○小笠原委員)

保育園などもこれから変わっていくと思うんですけれども、小学校はこの間、亀ヶ森小学校などが減ったような気がします、その確認です。パーセンテージが変わっていくと思うので。

(○高橋副館長)

そうですね、減っております。亀ヶ森小学校と内川目小学校が大迫小学校に統合になっております。12 ページの数字を変えていませんでした。すみません。こちらは見やすい形に修正していきたいと思います。

(○坂本会長)

はい。それでは、よろしくお願いいたします。ほかにございませんか。

(○堀合委員)

先ほど、佐藤委員さんが一生懸命小学校でボランティアをしたという話をして、(その子たちが) 高校に行ったら 1.4 冊になって、ちょっとがっかりしたという話がありましたが、そんなことは全然ないと思います。11 ページの目標 4 の数値は、市立図書館が貸出した冊数ということですので、中学高校になって、忙しくて市立図書館には行けないけれども、前のページの目標 1 を見ますと、1 か月に 1 冊でも本読んだという数値は、高校 2 年生で 97.9% で、決して悲観するデータではないと思います。とても小さいときにそういう読書習慣を身につけるということは大事なことで、本当にそういうふうにとらえていただければいいのではないかなと思っております。

関連しまして、6 ページです。学童クラブについてです。学童クラブは市内に 19 か所あって、現在、そのうちの 10 施設が団体貸出を受けているとありますが、残りの 9 施設は団体貸出というのを受けていないというふうにとらえますと、やはり学童クラブに入る子どもは、私の子どももお世話になったわけですが、親が忙しくてなか

なか図書館に連れていってもらえないとか、そういう子どもも多いのではないかと思いますので、そういった子どもたちへ支援するという意味で、残りの 9 施設についても、何らかの形で、「団体貸出をお願いします」というように学童クラブから来なくても、「こういったような本、移動図書館のときに置けますよ」とか、そういった支援の手があれば、公平にといいいますか、親の多忙化にかかわらず子どもが読書することができてよいのではないかなと思っておりますので、今後の検討をよろしく願いいたします。

それから、この推進計画を見てみますと、15 ページですけれども、「ボランティアの育成を図ります」というようにありますので、図書館に関わるボランティアについては、やはり災害時のボランティアと違って、一定のスキルが必要といいいますか、そういうことで、育成という言葉を使ってもよいのだなというように、実は考えました。私と熊谷さんが新花巻図書館の整備基本計画検討会議に出させていただいておりますが、そのときに、ボランティアについて育成というのはいかがなものかという声もちょっとあったかに思いますが、この推進計画では育成という言葉を使っているので、これは使ってもよいのだなというのを確認させていただきました。

すみません、後 2 点です。20 ページです。啓発、広報等の推進というのが 2 番にありますけれども、これはとても大事だなと思っております。情報発信をする、啓発資料を配るというのは、ふだん図書館に行っていない人も、「行ってみたいな、企画展がある、ギャラリー展がある、こういう図書の展示企画がある」ということで、図書館に足を運ぶきっかけにつながるのではないかなと思っております。ですから、市の広報、あるいは回覧等を通じて、これからも情報発信、啓発活動を行ってもらうのが、今後の読書活動の広がりにつながるのではないかなと思います。

もう 1 点です。21 ページからの目標値についてです。いくつかの目標値が載っておりますが、これを見てとてもいい目標値だなと個人的に思いました。と申しますのは、実績といいいますか現状に対して、目標値が実現可能な数値となっているというところが非常によいなと、現実的であるなと思っております。国の指針がこうだからということで 10 ポイント上とか、そういう目標値を定めたというのも見たことがございますが、毎年 0.3 冊加算とか、毎年 1 冊とか、2 千冊毎年蔵書増というふうな、実現可能というところが大変よいなと思いました。以上です。

(○坂本会長)

ありがとうございます。ちょっとほっとした意見でありありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。はい、梅原館長。

(○梅原花巻図書館長)

ありがとうございました。いただいたご意見は反映していきたいと思ひますし、そのなかで1か所、15ページの「学校図書館ボランティアの活動が、市内小中学校において幅広く行われるようボランティアの育成を図ります」の部分、私も検討会議に参加しておりましたので、会議ではボランティアに対しては育成ではなくて、市立図書館などが支援していくような、活動を支援するようなところがあればいいのではないかという意見をいただいております、(第四次計画案の)前半の部分は、第三次計画まで「育成」という言葉を使っていたところを「支援」に修正していたので、こちらにも新図書館の検討会議の内容と合わせる形で、「支援」という言葉に直していきたいと思ひています。ただ、スキルアップ講座について、先ほど佐藤委員さんからも、絵本の選書や、絵本の読み聞かせなど絵本中心な内容なので、違う内容をというお話がありましたけれども、やはり(関係団体の方に)ご意見を伺ったなかで、いろいろな障がいがあるお子さんたちに適した本をどういうふうを選んでいけばいいのかなと、そこを迷いながら活動されているというご意見も頂戴しておりましたので、そういった内容の講座ができないか、また、絵本だけではなく、物語の選書や読み聞かせをテーマにした講座ができないかなど、スキルアップ講座の内容について、もっと検討し精査していく必要があると思ひておりますので、その部分は、やはりボランティアの育成に関わる部分だと思ひています。正直なところ、「支援」と「育成」、どちらで行くかというところは、私も迷っているところではあります。

(○堀合委員)

実際、大迫図書館の事業では、「育成」という言葉を使っております。何かそれを聞いても、違和感はないと申しますか、図書館ならではのボランティアのあり方として、よいのではないかなと思ひます。

(○梅原花巻図書館長)

そうですね。検討会議とは異なりますが、子ども読書活動推進計画のほうは、「育成」でよいのかなと思ひます。

(○坂本会長)

ありがとうございます。

学童クラブに関わるものとして今ちょっと現状をお話ししたいと思ひます。絵本が好きな子、それから、絵本は子どもっぽいという子、いろいろいます。それで、物語の本を読んでいるとやはり時間が限られているので、1回に全部は読めないんです。ちょうど面白いところで、講談みたいに「本日はこれまで」と。そうすると、翌日になると、「先生、続きを読んで」という子もいれば、けろっと忘れて遊んでいる子もいればいろいろです。強制するものではないので、「続き読むよ」と言えば、聞きたい子

は集まってくる。それから、ぶんぶんごまの物語があるんですが、ぶんぶんごまの絵はあったんですけど、絵だけでは子どもは分からないだろうなと職員がつくって、こうやって「ビー」とやったら、「えー」って。それでまた、本に対する興味が湧いたり。それで最後まで読みたいって。とうとうその本は最後までいかなかったんですけど、「続きは自分で読みましょう」と言ったら、読んでいました。それから、テレビで今、銭天堂のお話が、雑誌も本も出ていますが、銭天堂がでてきたら夢中になって読んでいました。やはり子どもたちが興味のあるものには、「読みなさい」と言わなくても読みますし、図鑑も読んでほしいと図鑑の編集者が言っていましたけれども、「図鑑も読書です」って、ぺらぺらめくっていても読書です。だから、そういうことでのいろいろな形があっていいのかなと思いますし、読みたくなれば、子どもは読むかなと。そのためには、その環境づくりが大事かなと思っています。それで、「いわ100きつず」の話が出ていましたけれども、「いわ100」は子どもたちには配付になるかと思いますが、生涯学習推進センターにはあるんですが、図書館でも常に見ることができる場所にあれば、選書に迷ったときにそれを見て選ぶのではないかなと。いただいてもうちに置きっぱなしという人がほとんどなので、図書館で手にとれるところにあればいいなと思います。親も、子どものために本を選んでいこうというときにそれが参考になるかなとも思いました。

それから、パパママ教室があるかと思いますが、そのときに読書の大切さ、読み聞かせの大切さを啓発できないかなと。どうしてかということ、生まれる前はどのように育てようかといろいろな思いがあって、理想に近づけたいと思うと思うんです。いざ生まれると、実際忙しくなってきたりなかなか大変だけれど、やっぱり赤ちゃんがおなかにいるときに、お父さんお母さんに読み聞かせの大切さを分かってもらえたらいいなと、これ（計画案）を読んでいて思いました。

ほかの方々のご意見は。実際に学校の現場からは、先生いかがですか。

（○佛川委員）

小中学校両方経験していますが、小学生のうちだと「さあ読もう」と言ったときに自然に読めるんです。それがだんだん中学生になっていくと、ただ読もうと言ってもなかなか読まなくなってくところもあります。小学生は素直だというのもありますし、それでちょっと現場の話を。21ページの目標2のところ、小学校5年生で1か月で15冊から16冊へというところが、年間にするとかなりの、200冊近くになっていくので、実は本校では、低学年は年間100冊を目標に、中学年で80冊、そして、高学年は本も厚くなってくるので50冊ということで取り組んでいます。呼びかけにも素直に答えてくれますし、図書委員会ではビンゴをつくってですね、こうい

うジャンルの本と、こういうジャンルの本でビンゴができると、図書委員がつくったしおりがもらえとか、そういったことでいろいろなジャンルの本を読ませようということで取り組んでおりますが、だいたいその目標冊数を達成する子が90から高いところで95、96%、学級によっても違います。そうしたときに、もちろんゴールドカードなるものを私もつくって、達成した子にはあげているんですけども、きらきら光る黄色のカードで、お見せしたいぐらいですが、そういうことをやりながら、何とか本に親しませながら、違う分野の本にも、いろいろな分野、ジャンルの本も読ませながらということをややすいのはやはり小学校だなということをすごく感じます。それで、この目標はすごく高く、本校ではここまでいけないなと、低学年、中学年、高学年とだんだん本も厚くなってくるし、中身も多くなってくるし、1か月（この数値までは）読んでいないなということでちょっと反省しながら、高い目標にちょっと驚いていたところでした。以上です。

（○坂本会長）

はい、ありがとうございます。中学校の状況、お願いいたします。

（○菅原委員）

3月まで小学校の校長でしたので、どういう取り組みをしてきたかという、今、佛川先生がおっしゃったようなこと、それから、実は睡眠時間が長いにもかかわらず、もう朝から眠そうな子どもがいるということで、睡眠の質を高めるということを目的として、寝る前の30分にテレビなどをなしにして、そこで「家読」、家での読書の時間を30分なり入れていこうというような、生活習慣を見直ししながら、読書を入れるということをやってきました。学校では読むけれど家では読まないということでは困りますので、とにかく家で読む。そして、私は小学校のときに読む習慣さえつければ、中学校高校で（読書から）離れても大人になってから読むというようになると思っていましたので、小学校でとにかく読むと。

中学校の現状を言いますと、読む時間はまずないです。例えば、本校では午後6時半ころに部活が終わります。そのあと家に帰って7時、それから夕食を食べて風呂に入って、2時間勉強したらもう何もする時間がなくなって、その中でゲームやスマホまで見てしまうとなると、読書まで時間を回すということはなかなか難しいと思います。読書も大事ですが、中学校になりますと、目の前の点数を上げていかなければ、成績を上げなければならないというところにやはり目がいきますので、学校で取り組めることはせいぜい朝の読書の時間、10分から15分ぐらいですが、その時間に読む。ここで、うちの学校で問題になっていることは、継続して同じ本を読まない子がいる、つまり、ただ読めばいいやというような子がいますので、そこをこれから指導

していきたいなというように思っております。以上です。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。両先生から貴重なご意見、実態をお伺いしました。ほかにございませんでしょうか。はい、熊谷委員さん。

(○熊谷委員)

中学校では、10分というのは朝読ですか。そういう朝読は、だいたいどの中学校でもなさっているのでしょうか。

(○菅原委員)

本校では、今年の4月から朝読書を入れるということにしていたので、その前は、いわゆるドリル学習だとか、あるいは曜日によってということですが、うちは4月から、朝会の日は別として、月曜日から金曜日まで読書するということでやっています。学校によって違うと思いますが、(どこの学校も)週に1回か2回は朝読書の時間はあるかと思います。

(○熊谷委員)

ありがとうございます。

(○坂本会長)

ほかにご意見はございませんか。それでは、今出た意見を加味していただきながら、計画をつくっていただくということでよろしく願いいたします。

それでは3番目の「新花巻図書館整備基本計画試案検討会議について」に移らせていただきます。市川部長お願いいたします。

(3) 新花巻図書館整備基本計画試案検討会議について

(○市川生涯学習部長)

生涯学習部 市川です。よろしくお願いします。新花巻図書館につきましては、今までもいろいろ議論いただいております。前回、ご紹介いたしましたが、新花巻図書館整備基本計画の試案というものについて、検討する会議を立ち上げまして、今年度今、検討しているところです。この図書館協議会からも、メンバーに参加いただいております、これまで6回、開催したところでございます。今回、この6回やった会議の内容を要約したものを資料No.3として添付させていただきました。この資料で、経過を説明したいと思います。

まず1回目は4月に行いまして、試案検討会議の目的、進め方等を説明したうえで、試案の全体についての説明をしたというものでございます。2回目から、具体的な中身について、意見交換をしたものでございまして、今回は状況の説明ということであ

りますので、ざっとご説明いたします。1枚めくっていただきまして3回目は6月です。3回目、そして4回目、5回目、11月12日に6回目が終了したという段階でございます。これで、1通り、1回この試案については議論をしたという状況であります。

次にどのようにしていくかということですが、この試案についてご意見をいただいた部分を、今、事務局でどのように反映させるかを検討しているという段階であります。これを、試案にはめ込んで、意見を生かしながら、第2案をつくりまして、12月か1月の会議に提示して意見を再度もらうというようなことになろうかなと思っております。

このなかで特に多かった意見としては、1ページ目に戻っていただいて、1ページ目の1番下のあたりに学校司書、あるいは学校図書館システムとの連携、学校との連携というようなご意見があります。これは2ページ目、3ページ目にも同様な意見がいろいろ出てきておりまして、簡単に言いますと学校図書館の本と市立図書館の本は（今は）連携していませんが、それを連携させて何かもう少しできないかというハード的な面と、もう一つは人ですね、学校司書を学校の先生で配置するということはなかなか難しいというところもあるのですが、そういう人を配置して、もっと読書活動なり、学校で本を生かした事業ができないかというようなことでございます。

先ほど来、佐藤委員さんからもお話がありましてとおり、小学校までは（中学校でも）読み聞かせをやってはいますけれども、本を図書館に借りに来るとするのはやはり小学生以下ですね、これはやはり親と一緒に来るからというところがあります。それはどうしても拭えないというか、親の意識まで全部変えるというのは非常に難しいとすれば、学校にはみんな子どもが行くわけですから、学校に来る子どもの意識を変えられる、あるいは図書に興味を持たせるということは非常に重要でありまして、そのなかで読み聞かせをしていただいていることは、本当に、堀合委員さんがおっしゃったとおり全く無駄にはなっていないと思います。

高校はですね、実は高校生からも新しい図書館についていろいろヒアリングしていただきまして、（高校生は）本を読んでいないわけではなくて、ただ、花巻図書館はちょっと行きづらいというのがあります。やはり学校（通学路）の途中にあればいいなという意見はありますし、なかなかそのあたりが、今までのご意見のとおり、中学校高校になると忙しい、部活もある、勉強もしなければいけないということがあって、ちょっと読書ができないなという意見はあります。一方で、新しい図書館でも意見をいただいているのですが、新しいメディアや、電子図書というようなところも留意していかなければいけないと思っております。高校生から聞いてですね、図書は借りてないけれども本は読んでいる、携帯で読んでいるというのが案外あります。本は全然借りな

いけれども、スマホで読んで、学力が高い子も結構いるんですね。そういうような、必ずしも本を借りなければどうだという時代ではないのかなというのもありまして、そういう新しいものに対応していくべきだというような意見が出てきているという状況です。

あとはバリアフリーやユニバーサルデザインも当然配慮しながら。あと課題としてとらえているのは、学校との連携をどのように新しい計画で示していくか、もう一つ、将来的な、図書館の未来系というか新しい図書の扱いと、やはり図書館という既成概念という変ですけども、新しいいろいろなメディアなり何なり、あるいは若者が来るようなものというのをどうするべきかというあたりを盛り込んでいければなというようなことで、今、整理をしているという段階です。

試案の第2案ができましたら、教育委員や社会教育委員の皆さんからご意見を聞いたり、パブリックコメントをしたり、図書館協議会の皆様からも、最終的に意見を聞くという形を考えております。そのような状況でございます。なかなか進まないのですが、中身はかなり議論されていると思っていますし、高校、あるいは若い、お子さんを持った方々からもいろいろと話を聞いたり、あるいは障がい者の関係者のところに行ってお話を聞いたりなど、使いやすい図書館を目指して、だいたい具体化というか詰まってきているという状況でございます。第2案がまとまりましたら、皆様方にも見ていただければというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。なかなか形にするのは難しいですね。楽しみに待つことにします。

それではほかにございませんでしょうか。今まで言い足りなかった点等、ございましたら、お一人ずつ発言いただきたいと思います。もう一度、佛川先生から何かありましたら、今日の会議全般でも何でも構いません。

(○佛川委員)

一番印象に残ったのが、先ほど堀合委員さんからもありましたけれども、高校2年生の読書、1か月に1冊以上これだけ読んでいるといったところは、正直驚いています。いろいろなところの活動が、こういうふうに実を結んでいるんだなとつくづく感じました。以上です。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。菅原委員。

(○菅原委員)

提案の中であった生活習慣といいますかね、日常生活と読書というところをうまく

かみ合わせながらやっていくことが大事だなというように思っています。それから、今のお話でありましたが、電子書籍は、私は必ずあったほうがいいと思います。若い人たちが読んでいるのは、今ウェブ小説ですね。あれが紙化してベストセラーになっていくというパターンが多いので、そういうところを若い人の意見をどんどん聞きながら、取り入れていただければと思います。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。堀合委員。

(○堀合委員)

新図書館の基本計画検討会議に出席してずっと気になっていたところをここで一つお話ししますと、皆さんにも 7 月に渡された資料の中にあるわけですが、開館時間です。10時から20時ということで、一関市図書館を参考にして、そういう時間帯にしているところが実はずっと気になっておりまして、社会教育委員会会議でも、この点を、朝10時はおそいのではないかという方が、新図書館の検討会議でもございましたし、そのへんがちょっと花巻時間としてどうなのかということを私自身悩んでおりまして、今日10時前に、この図書館に来まして、一体どれだけの人数が入っているだろうと思って、そこの学習室から新聞のところから2階を見ましたら、11人おりました。私は新しい図書館ができてサービスが悪くなったということは、実はそういうことはあってほしくないと思っておりますが、今実際、10時前に使っている人にとっては、「新しい図書館ができたなら10時か、いつも9時半ころ行って新聞読んでいたのにな」という、そういう苦情がない図書館であってほしいなと思っております。10時という開館はこれでいいのか。それから終わりの20時とありますが、前に図書館協議会の場で（説明のあった）利用者のアンケートを取ったのを見ますと、18時では早い、19時までせめてというご意見で、20時という時間はなかったかなあというふうに思っております。私は一関に2回、学校勤務しまして、一関と花巻の違いは雪の多さです。長いブーツを持っていったら、8年間とも1回も使わないという、雪の多い花巻が、夜20時まで、果たしてどれだけの人たちが利用するのか、ちょっと開いてないので分かりませんが、それよりも、今9時あるいは9時半、例えば10人前後だとしても、そういう使っている人のサービスが、それを置いてまで、10時から20時というのは、どうなのかなと実はずっと思っております。後でまた、新図書館の検討会議でもお話ししたいと思っておりますが、以上です。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。松田委員。

(○松田委員)

私も新図書館のほうの会議にも参加させていただいておまして、今日の会議も本当にいろいろなご意見を聞かせていただきまして、いろいろ勉強させていただきました。一つ、事業実施状況のところを見ていて思いましたが、いろいろなことをせっかくやられているのですけれども、広報がなかなか行き届いてないのかなというところがちょっと気になっていたところで、興味のある方はいろいろこの図書館に対しての情報を取って、こういうところに参加されている部分もあるのかなと思うんですけれども、興味のない方がどう引き込まれて参加に結びつけるのかなというところを、もう少し広報に工夫があるともっとよくなってくるのかなというように思っていました。今日もありがとうございました。よろしくお願いします。

(○坂本会長)

ありがとうございました。高橋委員さんお願いします。

(○高橋委員)

高橋です。まず一つ、最後の図書館計画についてすごく進んでいるんだなと思って感心して見せていただきました。素晴らしい図書館ができることを楽しみにしております。

それから、今日の会議の中でそれぞれの図書館事業をやっているのが、コロナでみんな中止、中止になっていることを非常に残念だなと思っております。ぜひ、今回できなかったのを続けて、どこかの、来年度の計画の中に入れていただければいいのかなと思っておりました。

読書活動推進計画につきましては、委員になっていまして思いましたが、これから5年後を目標にして今計画が出ているわけですが、これがぜひ市民に浸透する啓発というのでしょうか、啓蒙というのでしょうか、そちらのほうを一生懸命やっていただければいいなと思います。これからの人は、本を読むことも、活字を追うというよりはもっと違う形で、私、人間がだんだん育ってきているのではないかなと今思っております。電子書籍もそうですけれども、もっと違う形がこれから出てきそうな気がしてなりません。ですから、今までやってきたことをここで終わりではなくて、何らかの形で継続していくこと、つなげていくことが大事なんではないかなと思っております。特に読み聞かせというのは、「聞かないからやめましょう」ではなくて、聞かないけれども、どこかで、やっぱり心に残っているものがあると思いますので、そういった方々にも続けていただきたいなと痛切に思っております。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。熊谷委員さん、お願いします。

(○熊谷委員)

先ほども、ちょっと話しました。そして、基本計画の試案検討会議のほうにも私出させていただいております。大変優秀な方たちが出席なさっております、私は一体何でここにいるのかななんて思うようなときも多々ございます。ただ、新しい図書館で、市民の人たちが「図書館新しくできたんだ。ちょっと行ってみようかなあ」というような思いで、図書館に一步踏み入れたときに、いろいろなことがぱっ、ぱっと目から入るじゃないですか。図書館の中の蔵書だったり何かで、きっと興味を引くものがあるはずなので、そういうものをやっぱり目指して行ってほしいなとつくづく思います。「本が嫌いだ、嫌いだ」と言っても、小さい子どもの頃は、「お母さんこれ読んで、お父さんこれ読んで」と絶対に本を持ってきたんではないかなと思いますし、またその子どもを育てている親の方たちも小さいときはそのように本に親しんでいたのではないかなと思います。でも、毎日毎日の忙しさに心がちょっと途切れてしまって、「本なんか読んでいる暇ないわ」というふうになられると、今この新しい図書館ができるというときに、スイッチが変わってくというのは、私は大変期待しております。たくさんの方たちが、やっぱり本に触れていくということが、自分の心を育てていくことなのではないかなと。今とても嫌な事件が起こっているけれども、もしそういうふうな事件を起こした人たちが本に接していて、そこにいろいろなものを求めていったら、そういう、総毛だったようなガサガサしたような心にはなっていかなかったのではないかなと思うので、これは私たち大人の責任なのかなと思います。

私たちは常に役所の方たちとか、図書館なら図書館とかって、文句ばかり言いたくなるようなんですけれども、そうではなく、自分たちも一緒にかかわりながら育てていこうという気持ちを市民の人たちが忘れてほしくないなと思います。以上です。

(○坂本会長)

協働していくということで。はい、佐藤委員さん、お願いします。

(○佐藤委員)

私の小学校でのボランティア活動が無駄ではなかったとお励ましいたいて、ありがとうございました。これからも頑張りたいと思います。

来年1月15日の10時から石鳥谷図書館で、大人のためのおはなし会があります。私もすてきな冬の物語を読みますので、ぜひいらしてください。よろしくお願いします。

(○坂本会長)

頑張ってください。

(○佐藤委員)

はい。

(○坂本会長)

はい、小笠原委員さんお願いします。

(○小笠原委員)

はい。いろいろ図書館の活動を報告していただきありがとうございました。希望ですけれども、各幼稚園とか保育園とか、各施設との連携はどんどん深めていってほしいと思います。あと、特に学童クラブ、なんでも子どもたちをお世話になる人が増えているということでしたので、学童クラブにもどんどん本を貸していただいて、子どもたちがいろいろな本を読めるようにしてほしいなと思います。よろしくお願いします。

(○坂本会長)

ありがとうございます。及川委員さんお願いします。

(○及川委員)

私は、中学1年生の子どもを今、育てている最中の人間で、あとブックスタートで、本2冊とマチつきのかばんをいただいて、そのマチつきのかばんを持って、小学校に上がるまで、毎週、本を借りに来ていたんです。小学校に入って、小学校の図書室で本を借りるようになって、図書室でいっぱい本を読んで、ちっちゃい表彰状を学校からいただいて、「こんなに読んだんだな」と親が感じたりして。そういうふうに来てきたので、推進計画を見て皆さんにいろいろ育てていただいて、大きくなってきたんだなあと思いました。今中学生なので、確かに忙しくてですね、クラブとか、あと塾とか、いろいろやることが多くて、なかなか、朝読書の時間が主なんですけれども、小さい頃にいただいたそういう種が、高校、社会人になって開くと思いますので、楽しみに。図書館ができるのを楽しみにしています。

(○坂本会長)

現役のお母さんからの言葉をいただきました。ありがとうございます。

事務局のほうにお返ししたいと思います。

4 その他 (○高橋花巻図書館副館長)

それでは、議題のほうは終了させていただきたいと思います。次第に沿いまして、「4 その他」ですけれども、議事議題にかかわらず何かございますでしょうか。

それでは本当に長時間、ありがとうございました。貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。皆さんのご意見を反映して、計画づくりをしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

5 閉 会（○高橋花巻図書館副館長）